

PDF



淡河町青少年公園にある湿地

加古川水系の源（みなもと）を発する丹生山（たんじょうさん）には、湿地があちらこちらにあります。

加古川水系は、六甲山地の北斜面、丹生山地などに源を発しています。六甲山地と違って丹生山地はあまり開発されていなくて、森の中の湿地がそのまま残されていて、そこには珍しい生き物たちがいます。

川としては、淡河川、志染川（神戸市内を流れる部分を山田川と呼ぶことがある）、美嚢川（大沢川）などが中心です。志染川流域は宅地が多くなりましたが、淡河川は田園地帯のなかを流れる昔の川のイメージを残していて、水辺の生き物たちもまだ数多く生き残っています。ホタルのいる川もたくさんあります。

山間につくられた小さなため池は、排水が入らないため、水がきれいで、生き物たちがたくさん息づいています。

加古川水系一帯は、神戸市内では、山と水に育まれた豊かな自然が残されている地域です。



淡河川：この地点は神戸市を少しはずれた三木市内ですが、市内でも同様に田園を流れる川の景色が残されています。



志染川：1960年代の谷上周辺は、田園地帯の中に有馬街道と神戸電鉄が走っていただけでしたが、現在は大発展しています。



サギソウ：丹生山の湿地には探せばこういったものも見つかります。



ハッチョウトンボ：湿地に住む日本一小さなトンボです。丹生山地には健在です。



アカザ：清流のシンボルともいえる魚です。丹生山地の川にいましたが、今でもいるのでしょうか。



草谷川：神出町の北部から稲美町にかけて流れ出る小さな川です。いずれ加古川に流れ込みますが、水はよく枯れています。



ゲンジボタルの生息環境：水がきれいで、底に石がころがり、ほとりにコケの生えた石があり、土の岸辺があり、まわりに林があって、流れの上は開けた空間がある、といった環境を必要とします。

[神戸の水辺環境を見てみよう トップへ](#)